

3. 実地研修での学び

セミナーに参加や、アウトリーチ同行では、訪問支援員として自分に足りていなかったこと、相談者への関わり方で改善すべき点など多くの学びがあった。

- セミナーに参加して
- アウトリーチに同行し
- 関係機関との連携



参加したセミナー

セミナーに参加して

料理

- 参加者4名、スタッフ2名、研修生3名
- メニュー：麩の卵とし井、ホトトギス&ウィンナー炒め、きのこ生姜のスープ



農業体験

- 午前 参加者1名、スタッフ3名、研修生3名
- 午後 参加者3名、スタッフ1名、研修生3名
- 野菜の収穫、畑を耕したり、虫取りなど



スポーツ

- ソフトバレーボール
- 参加者4名、スタッフ2名、研修生3名



学習会

- 高認試験に向けての学習支援



セミナーでの学び

各セミナーと利用者の
マッチング

- ハードルは高すぎないか。
- セミナーに参加する目的は何かを明確に。

参加する利用者
のマッチング

- 人数、男女比、利用者の特徴、目的を意識

セミナー中は誰に、
何に注意すべきか

- 利用者の注意すべき点は共有しておく
- 担当スタッフとの情報の共有

セミナー前に説明と
セミナー後に振り返り

- 自分の意見や感想を発言する機会を設ける
- セミナーでの体験が仕事にも結び付くことを意識

アウトリーチ同行

本人

- ①10代、女性、武雄
- ②40代、男性、伊万里
- ③10代、女性、唐津
- ④10代、男性、佐賀
- ⑤10代、男性、武雄
- ⑥30代、女性、武雄
- ⑦10代、男性、佐賀
- ⑧10代、男性、佐賀
- ⑨20代、男性、佐賀
- ⑩10代、男性、嬉野

関係機関

- ①佐賀大学
スクールソーシャルワーカー
- ②九州教育学会

来所者

- ①10代、男性

アウトリーチでの学び

- ① インテーク
- ② マッチング
- ③ 配慮
- ④ 観察力
- ⑤ ゴールの意識
- ⑥ 結びつける



① インテーク

- 相談者がどういう相談内容を抱えていて、その主張の背景にある問題は何かということを明らかにする
 - 言語的情報はもちろん、非言語的情報(身なり、字の書き方、歩き方、椅子の座り方、話し方など)からも情報をえる必要がある
 - ただ単に情報を聞き取るのではなく、関係性作りも重要である。落ち着いて、辛抱強く、共感的な態度で傾聴する姿勢は、相談者の不安を軽減し、理解されていると実感が持てる。

② マッチング

- インテークのなかで、本人の興味・関心は何かを聞きとり、担当スタッフとのマッチングを行う
- 興味・関心から入ることで関係性が築きやすく、そこから得意なことを伸ばしたり、目標につなげることができる。

③ 配慮

- 本人への配慮
 - 本人に合わせた言葉使いや態度
 - 年齢・成育歴・家族や友人との関係性など
 - 訪問の時間・場所など
- 家族への配慮
 - 世間体や近所の目があることを意識
 - 本人との関係性に注意

④観察力・想像力

- 家や部屋の様子を観察
 - 本人の生活、行動、原因など推察・想像する
 - 興味・関心はなにか
 - そこにあるものから会話を広げる
- 本人や家族の表情・身なりなどの観察
 - その日の体調や気分はどうか
 - 生活リズム、習慣はどうか
 - 生理的欲求は満たされているのか

⑤ゴールの意識

- インテークや関わり始めの時点でゴールを意識する
 - 本人にとってのゴールは何か、
ある程度の見通しをたてる。
 - 支援者ひとりで判断するのではなく、
複数のスタッフと話し合ったり、
スーパーバイザーに相談する。
 - 関係性を築きながら、計画を立てたり、
軌道修正をしていく